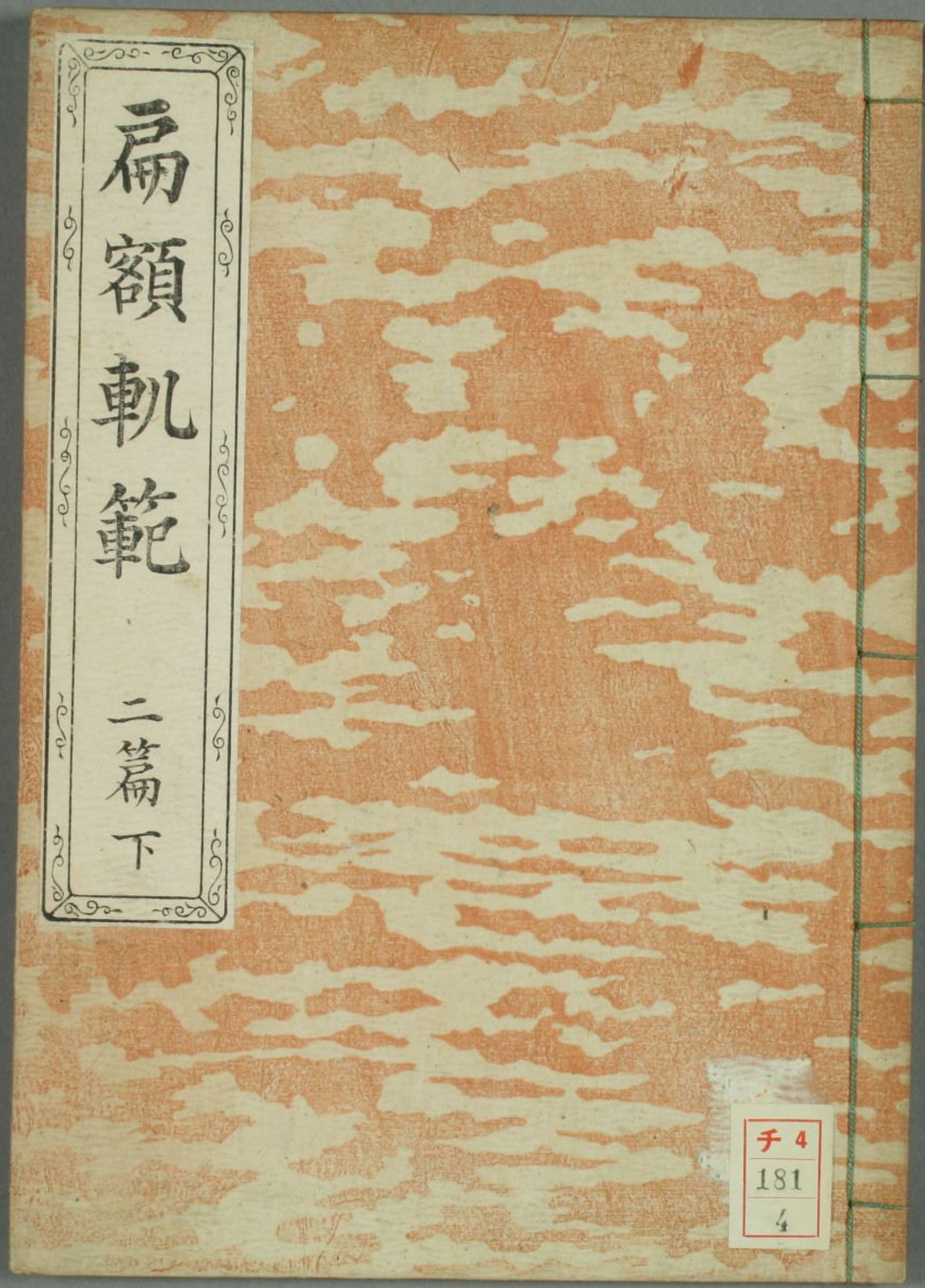
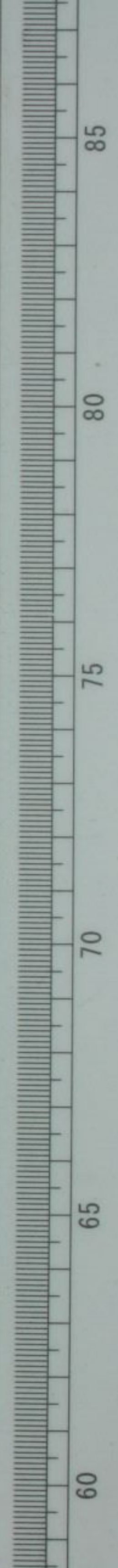




扁額軌範
二篇下

子 4
181
4



扁額軌範四之卷目錄

目錄

大佛殿石曳之圖

清和院 筆者不知

。壁間中横四尺

五郎丸抱止曾我時宗圖

北野

山本理兵衛画

。壁五尺横五尺七寸

印籠

上御靈

鈴木左馬作

馬之圖

清水寺 將野縫殿介画

。壁一間横二間

異國人歌舞之圖

清水寺 筆者不知

。壁四尺五寸横五尺



附録

前編扁額軌範小寫出れぬ馬鞍品画と專として其傳代關く今是と稱して所縁と加ふ古代の人物
所抄出して好古家の觀小傳一者君子初編を需と
合看しつゝ也

扁額軌範四之卷

○大佛殿石曳之圖

七年以通一乘の北清和院幸堂入

掲ぐ画人如く

大佛殿を洛東東山の麓にあつた廣寺と云く

○大岡記大佛殿の案に云 四方石垣の幸始をわたりぬやうに

仏法表へふまで石をもふからぬ盜に取に便も安うとてまがふ

を以て庫の築造しけり涌生を強引し石を二間も四も

勢をなす引けり石をどんとさぐけり本流のよりみ

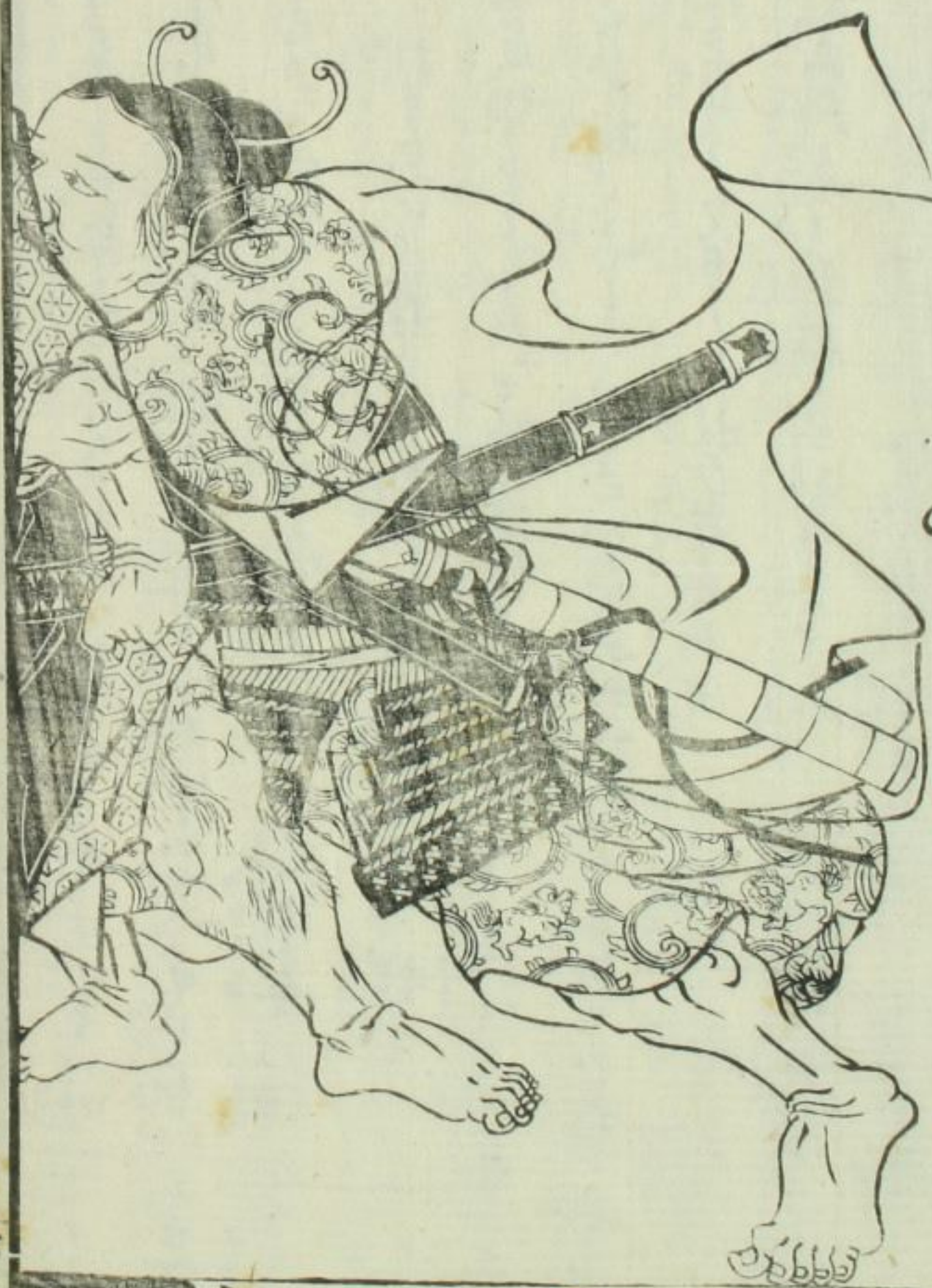
ふふの川と見ゆる御押もかぬ身く白川の裏より大仏

を事及七月

○豐后家清云 林通春作 是年春洛河く東山に於

けりといへば長院云は清世指田長来に命じて曰若

寛永二十一年霜月吉日 山本理兵衛筆



奉掛御寶前
諸願成就之所

願上速水六兵衛
白敬

宿坊
能喜



石坊
國食院



寬永拾四年五月吉日

狩野絳
助



け國漢人もこゝに大坐の人も多しに經るゝ東京交趾の人おらん踊躍の作
と被出の如きやんといふ。東京々漢土度て西南の開くある國之日本を海
しふに千里の地しふ。元々東京と交趾の都より近き東京交趾と二國より
名を置く。字布に二國の界にキヤンと云ふ山ありけふの肉桂と云ふ一なり
しと云ふ其たふ山を楚と云ふと云ふ。肉桂は人おる。其の唐人の如きと云
を所より漢語の如きの衣被ふ知る。人の形をおく。其の漢を日華の羅子

永應四歲

宿坊執行

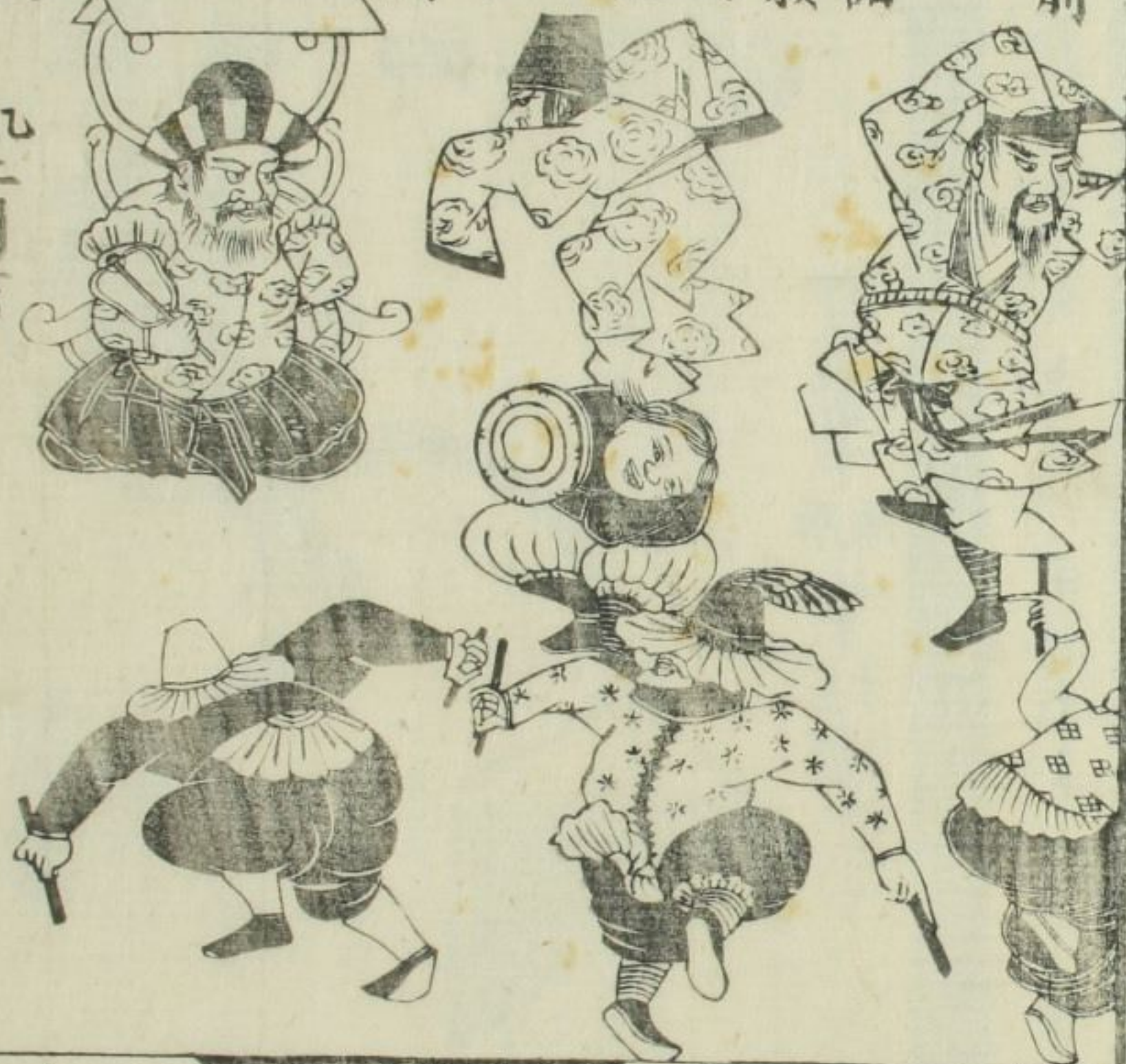
中峰詩集跋白

奉掛御宝

小舟より更なるは
 月代と新髪は
 けり男女ともに
 髪を剃るくまへし。
 如き日本の下駄の
 者ふ何れ。け國ふ
 暖玉より浮土乃
 下駄より。ひて煙土
 の文多紙用ひ何れ
 玉の郷はく

前諸願成就皆令滿足

未乙
二月廿日



異なり。著とぬて
わが書ふ。外國語
文字を用ひるは
さう著を用ひる
に比して略ち
○交趾を東南島嶼
今も安南國といふ
漢字の用ひる所の
文字と同じならん
等とは異なる人
事とす。日本より
千四百里遠し。

願主鈴木庄左衛門制作之

正義

寶曆十
辰庚
年
林鐘
吉日

上卿 あり

宝曆十年 蔣經師 鈴木庄五郎の作

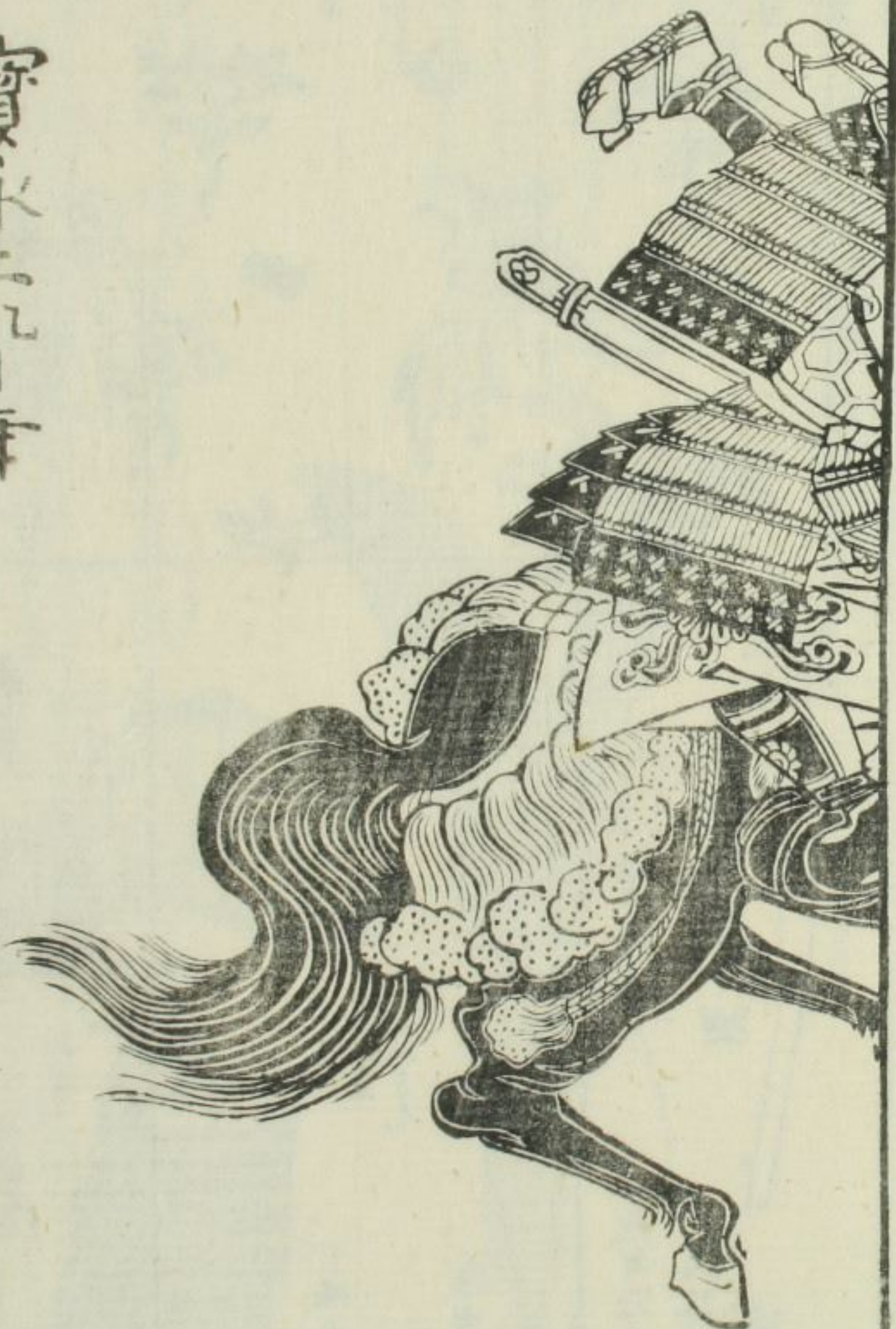
○齊藤實成血條系合戰之圖

齋藤長井別當実盛を田村將軍の後胤前夜より討て夫直子幼の名に河合を
郎を又助房は前夜一郎を又又実盛より討て武常れ参るるにともく小松園村
重盛が死を得て武常武常別當となり長井郷に住とえり古栗村友茂は
○一泥は作らぬを方々幸仕にまゝ京訴お願
が衆人なり
坂中郷の人旧地今新おぬありともく

○永享二年、木曾義仲を征伐して、平家の太将小松左近中将維盛、馬頭
 羽盛、薩摩守忠度、越前守佐通、盛三河守知茂、十萬騎等を率ひ、加賀越中へ援
 けに來り、越前守に交向し、義仲と礪波山を隔ち、北に平家教に、打負ふ事あり
 て、死者數わたり、加賀國より退く。義仲越前へ退く。藤原に歸り、平家又越前へ



前川右衛門
願主大坂住
京屋



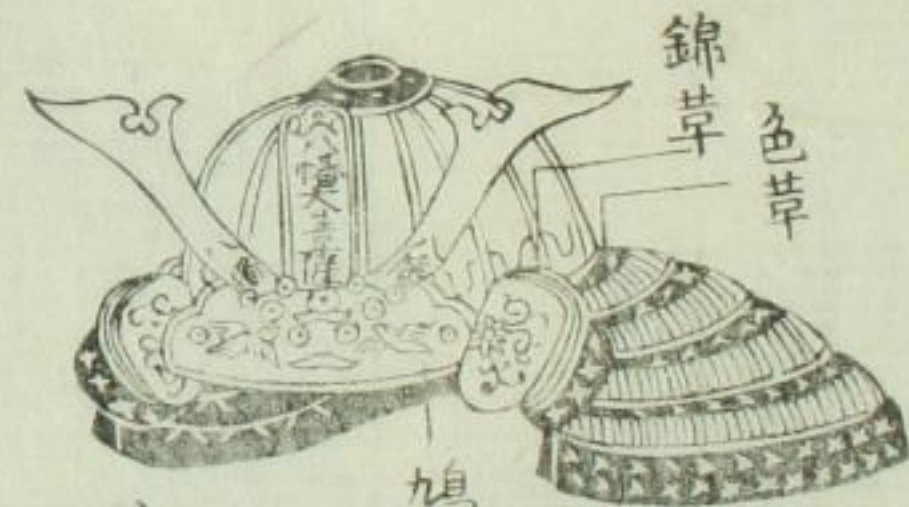
寶永二酉年
五月吉日
長吏
宿坊
宝光院

加州多太八幡宮宝庫
 有る宝盛泉甲大袖臙當
 赤地綿直垂之圖 ○赤地錦直垂之図



地赤色に糸金入

○五枚巾威啄木



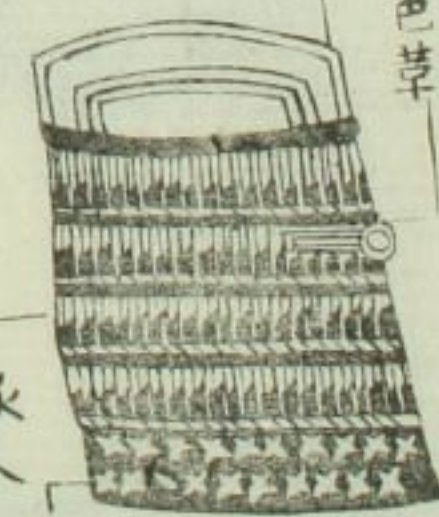
錦草 色草

紅糸

金威金

菊唐州

○鎧大袖



鴉銀

啄木

紅糸

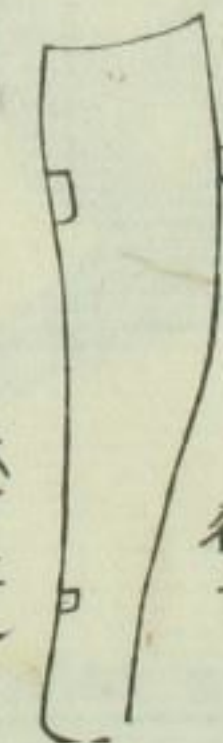
○臙當

内股方



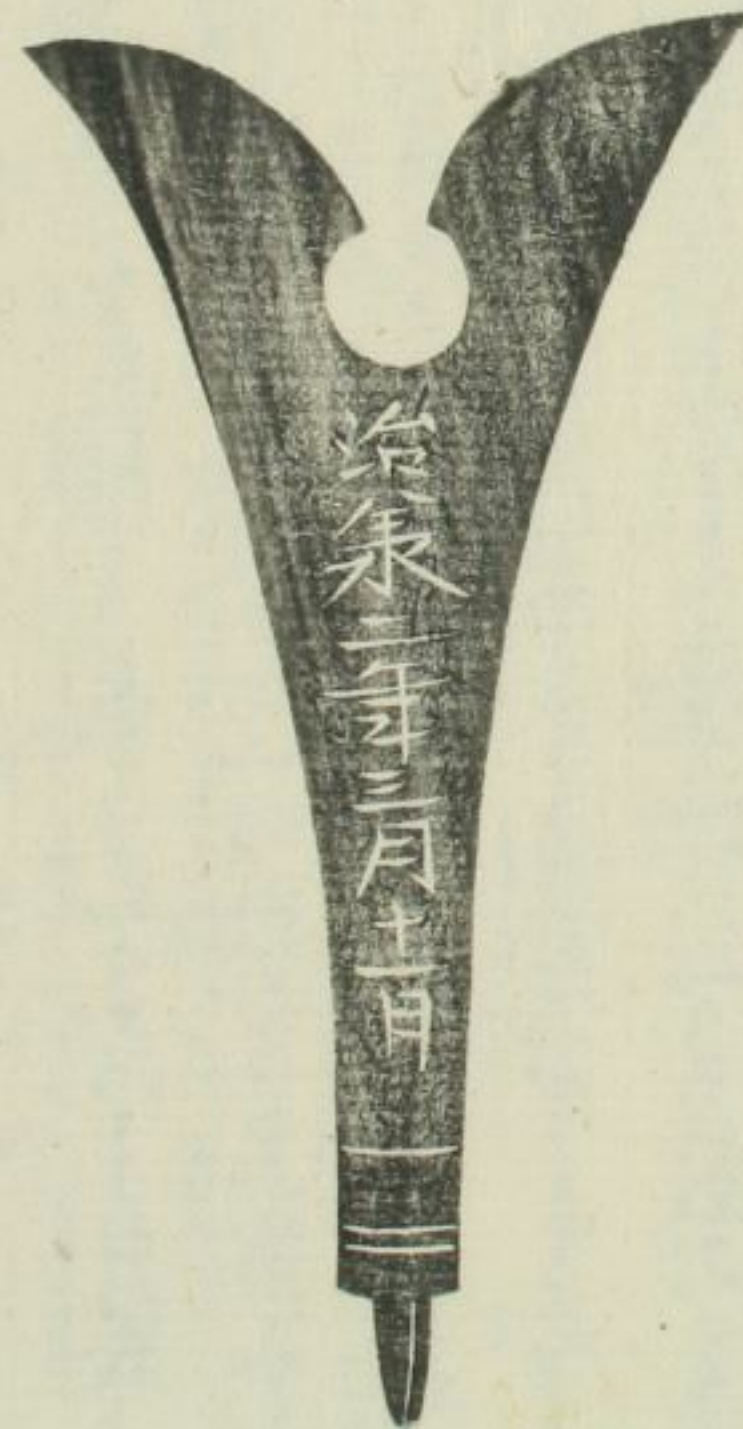
鉄打底

後方



宝盛泉甲大袖臙當の時辰仲作
 大根裏に「三」の字あり

多き八幡宮
 赤地綿直垂
 其の先地あり
 のししうの村の
 名にんはの太の
 方小まをの社
 あ



負て引退く時ふと盛盛十三只一騎あり
 此等組にふくまぬ即等
 討てしと盛盛組に大盛盛が獲り押付の板を廻り鞍のお端に付て
 を捨んとてふ様結ぶと大盛盛はふと組でと人馬よりふ盛盛
 とも盛盛が即候をいふて首の斬りて様其のふ盛盛のふ盛盛をいふて

○今加 即多を八幡宮の裏庫に定めて盛が弑死の時着たる兎甲の
大御膳當錦の直衣を我仲が衣根を花むく我仲が床伏のう文を

夫以八幡大菩薩者源家宗廟之洪基。国土擁護之靈神也。本地內證之月光輝乎十萬億土之天。和光同塵之焰然乎五千餘座之上。觸緣分化如天垂雨露。下揀榮枯焉。我祖陸奧守義家請於神力。輒破大軍。得利不可勝計也。今年義仲戰於越中。俱梨伽羅同夏五月。行軍加賀國。茲利仁將軍之末葉實盛。乃越前國之賢君子也。文忠武威炫輝于一世。先是義朝贈以菊甲。褒美之。當此時義朝守國日淺。賊徒蜂起。實盛輒載受甲。殺精銳之兵七十餘人。以報恩。自斯厥後。不幸降平家。蓋有年矣。今日與某甲拒戰于篠原濱。智振孫吳之謀。伏尸數百。勲功譽名殆無比類。然而勝敗異常。享壽六十餘歲。卒隕其命。時壽永二年夏五月二十一日也。嗟乎苦哉。某甲與公執父子之約。僅七日罔極悲其為誰哉。乃為公菩

